

富士見市防災環境カルテ  
**渡戸東町会**

位置番号 5

・概況

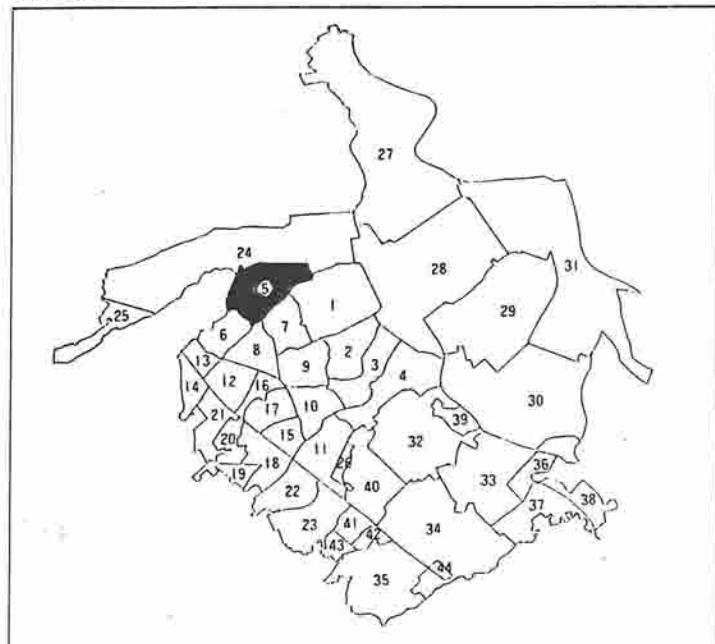
渡戸東町会は、富士見市の北部に位置し、北側に砂川堀都市下水路があり、低地（谷底平野）となっていて、南西側は台地（台地段丘）が形成され、東側は水田地帯（氾濫平野）に面している。

武蔵野台地上の住宅と田園とが融和した自然もあるが、砂川堀都市下水路上流の左岸（町会の北西部）には、水田を盛土して作られた住宅地が大井町に隣接しており、また、台地でも宅地化が進んでいる。

水害履歴からは、台風による大雨で砂川堀都市下水路の増水のため、貝塚地区で家屋が、薬師前地区で水田・畑が冠水する内水災害の発生が予想される。

地震災害は、木造建物密集地内で火災が発生した場合、延焼の危険性のやや高いことが予想される。

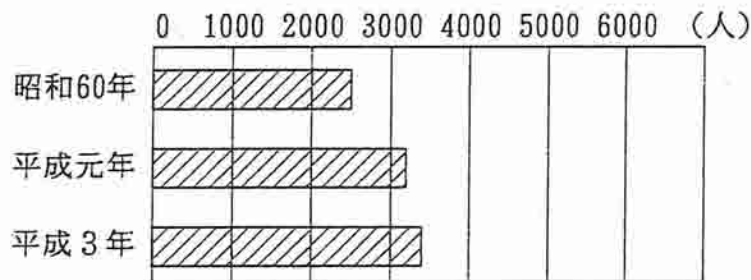
・位置図



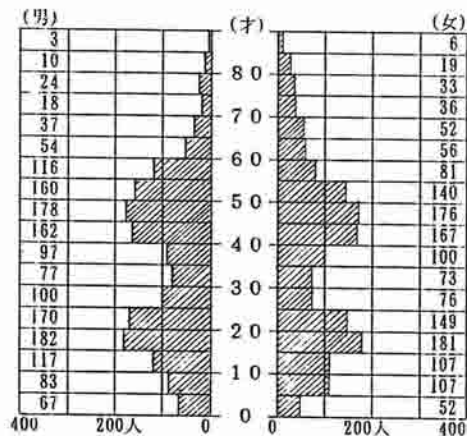
1. 基礎指標

・面積	0.378 km <sup>2</sup>
・人口(平成3年10月1日現在) 男	1,637人
女	1,603人
計	3,240人
・人口密度	8,571.4人/km <sup>2</sup>
・寝たきり老人数	6人
・ひとり暮らし老人数	6人
・世帯数	977世帯

・人口推移

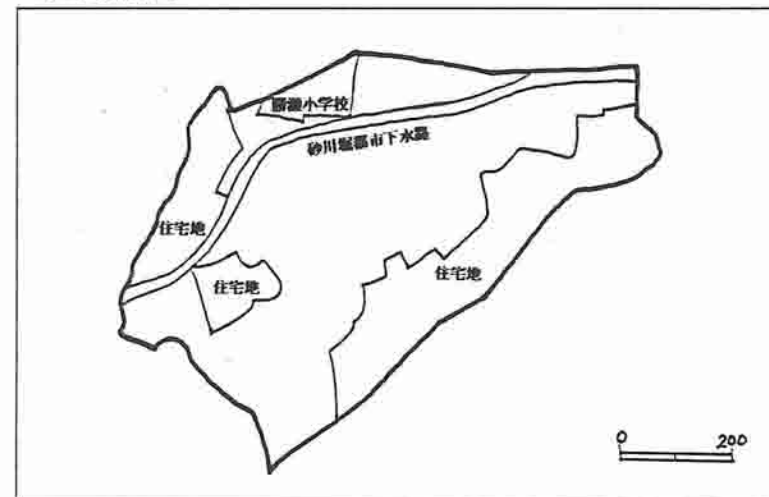


・年齢別人口(平成3年)

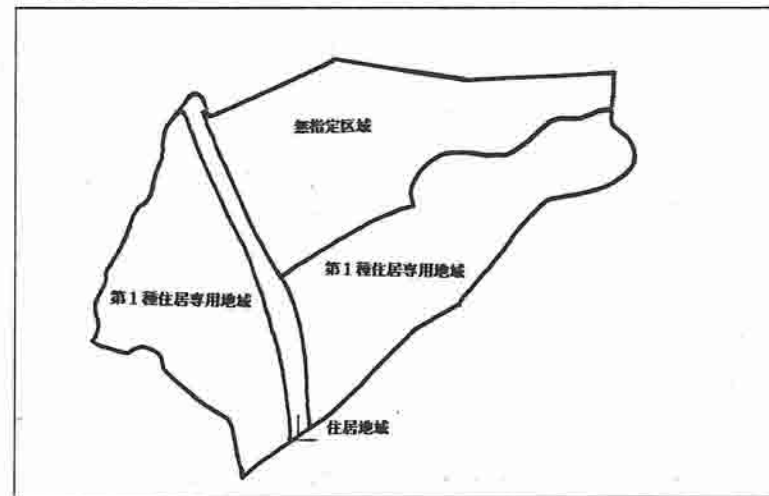


・商住工混在率住居系	95.0%
店舗系	2.4%
工業系	2.6%

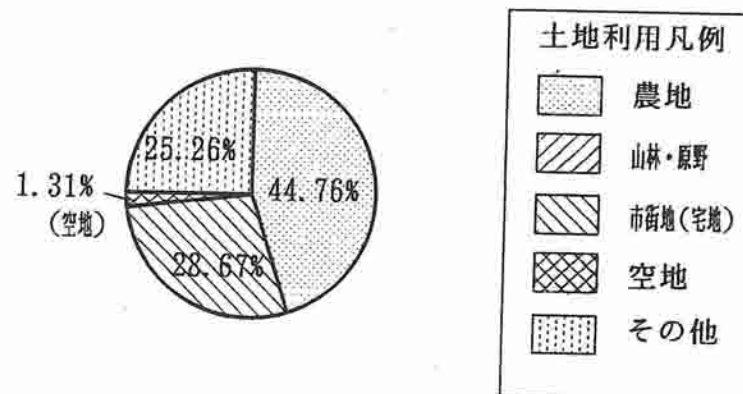
・町会現況図



・用途地域図



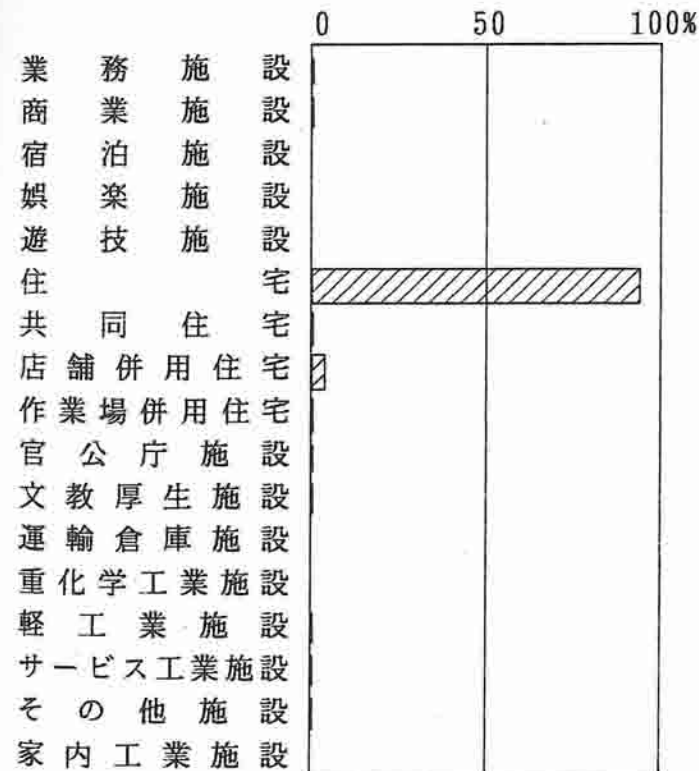
・土地利用現況



2. 建物指標

・建物棟数	1,211棟	
・木造建物	1,157棟	
・非木造建物	54棟	
・建物面積	46,230.00㎡	
・木造建物	43,196.85㎡	
・非木造建物	3,033.15㎡	
※建物面積は1階の面積		
・住宅率	93.6%	
・木造率	95.5% (1,157棟)	
・昭和34年以前の木造家屋実棟数	41棟	
・同上率	3.5%	
・建物階層別現況 (木造建物)		
1階	261棟	22.6%
2階以上	896棟	77.4%

・建物用途別現況



3. 道路空地指標

・道路率	51本	134.9本/㎢
・幹線道路率	4本	10.5本/㎢
・公共空地面積	24,149.2㎡	
・公共空地率	9.7%	
・1人あたり公共空地	7.4㎡/人	
・公共空地内容 (*指定避難所)		
名称	面積	
1. 高校	0㎡	
2. 中学校	0㎡	
3. 勝瀬小学校*	21,386.0㎡	
4. 縄文の丘公園	1,000.0㎡	
5. 渡戸ちびっこ広場*	1,536.0㎡	
6. 渡戸集会所*	227.2㎡	

4. 消防指標

所轄消防署	入間東部地区消防組合富士見消防署 応援協定 所沢市、川越地区消防組合、 新座市、志木市各消防本部
・消火栓本数	31本
・1消火栓あたり世帯数	31.5世帯/本
・消防水利貯水施設数	4 ( 2 ) か所 ( ) 内は容量40トン以上の施設数
・消防団機械器具置場	富士見市消防団第1分団

5. 危険物指標

・給油取扱所	0か所
・一般取扱所	1か所
・屋内・屋外(タンク)貯蔵所	0か所
・地下タンク貯蔵所	0か所

6. 既往災害

・家屋浸水被害	床下	床上	道路冠水
昭和57年 9月(台風18号)	41棟	10棟	か所
平成元年 8月(大雨)	4棟	0棟	か所
” 3年 9月(台風18号)	37棟	21棟	か所
年 月( )	棟	棟	か所
年 月( )	棟	棟	か所
年 月( )	棟	棟	か所
年 月( )	棟	棟	か所
年 月( )	棟	棟	か所
・崖崩れ被害 ( 年 ~ 年 ) 0件			
・火災出火件数 ( 年 ~ 年 ) 0件			
・1923関東大地震被害			
家屋全壊			0戸
家屋半壊			0戸
被害率			0%

7. 防災基盤施設

消防	0か所	
病院	0か所	
医 院	0か所	
休日診療所	0か所	
警 察	0か所	警察署 派出所
水防施設 その他の施設	3か所	貝塚第1排水機場 貝塚第2排水機場 貝塚山遊水池
・自主防災組織(数)	0	
・自主防災組織参加世帯率	0%	
・飲用井戸本数	0本	

8. 危険度評価

・内水災害危険度	4ランク
・外水災害危険度	0ランク
・土砂災害危険度	0ランク
・木造建物被害危険度	2ランク
・木造建物出火危険度	1ランク
・木造建物延焼危険度	3ランク

地盤	地盤の地震動危険度	低地 3	台地 4ランク
危険度	液状化危険度	" 1	" 0ランク

※ 危険度評価ランク

危険度	無	微	小	中	大
ランク	0	1	2	3	4

内水災害危険度



9. 地盤条件

地盤は、台地部で硬く、砂川堀都市下水路の左岸、右岸、北西部の左岸(谷底平野)で軟らかい。台地部で震度5(+) (強震の強い方)、浅い谷(浸食凹地)で震度6(-) (烈震の弱い方)、砂川堀都市下水路の左岸、右岸で震度6(+) (烈震の強い方)の地震が予想される。

10. 問題点の整理

災害発生要因		災害抑止要因	
1. 内水災害	砂川堀都市下水路の増水による内水排除困難での氾濫。	1. 水防能力	水防施設は、砂川堀都市下水路沿いに貝塚第1、第2排水場、貝塚山遊水池など3箇所を設置されている。
2. 外水災害	無い。	2. 防災組織	無い。
3. 倒壊危険	砂川堀都市下水路の左岸、右岸の地盤条件が悪いため、この地域の建物の倒壊に注意を要する。	3. 消防能力	消火栓、消防水利貯水施設は十分と思われる。
4. 出火危険	出火の危険性は低い。	4. 防火能力	木造家屋密集地域の防火能力は低い。
5. 延焼危険	延焼の危険性は不燃領域率が50%~70%と見込まれるため、木造建物密集地で延焼の恐れがややあると予想される。	5. 避難収容力	町会内に収容力のある勝瀬小学校があるが、町会の全人口を収容するためには収容力は十分ではない。他に渡戸集会所、渡戸ちびっ子広場(収容施設は無い)がある。1人あたりの公共空地は12.1㎡/人と見込まれる。
6. その他の災害	無い。		

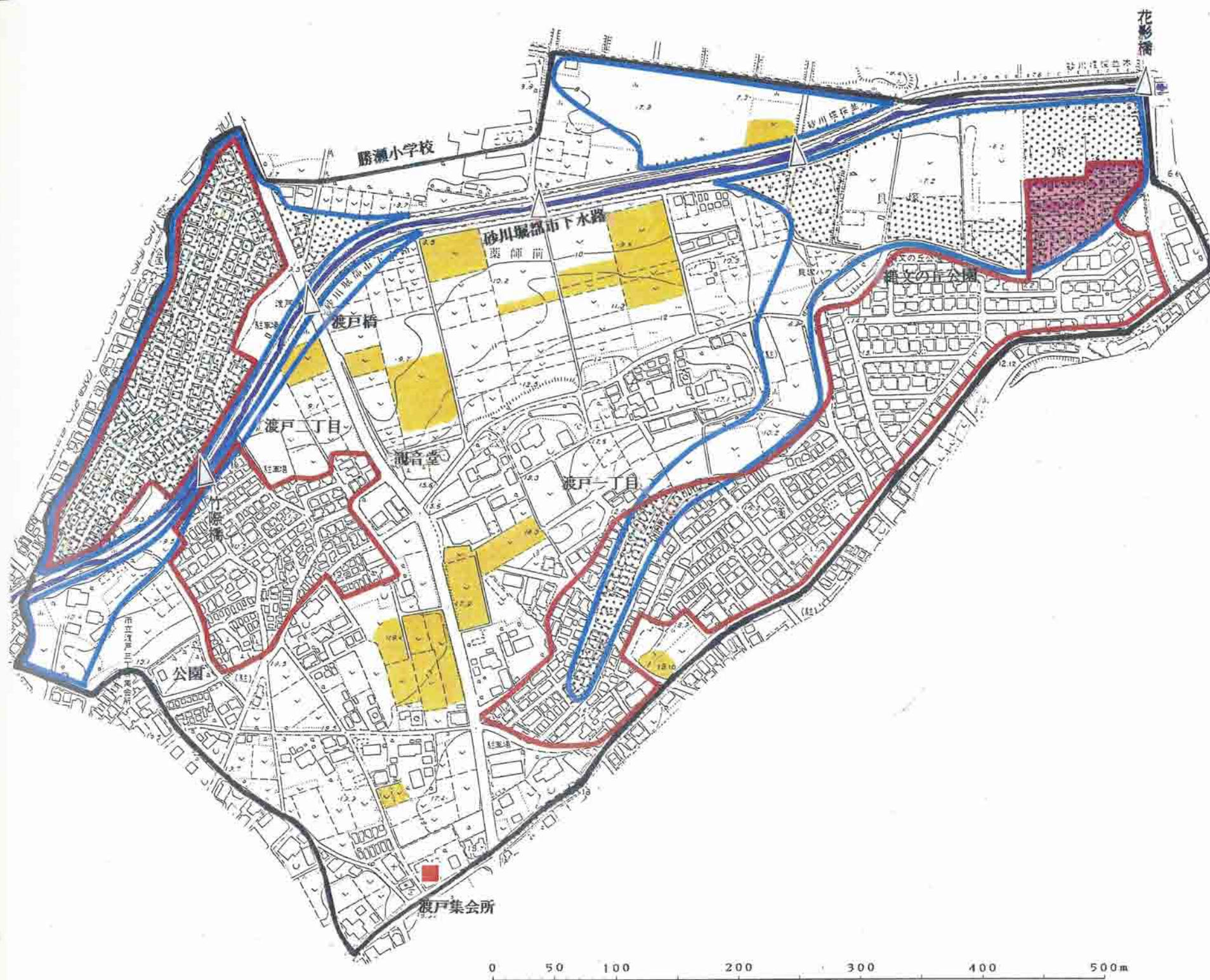
11. 解決の方向性

内水災害の予防対策は、新河岸川流域総合治水対策事業と雨水貯留施設の設置による雨水の流出抑制(「富士見市前期基本計画」1991~1995、治水安全性の確保による)と並行して、実施していくことが望ましい。避難可能な道路沿いにある自動販売機の転倒、ブロック塀の倒壊のため道路を狭隘化する危険性があるので、これら転倒・倒壊の予防対策の指導が望まれる。

※ 想定震度 低地6(+) (烈震(強))  
台地5(+) (強震(強))

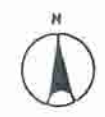


防災現況図A(災害発生要因)



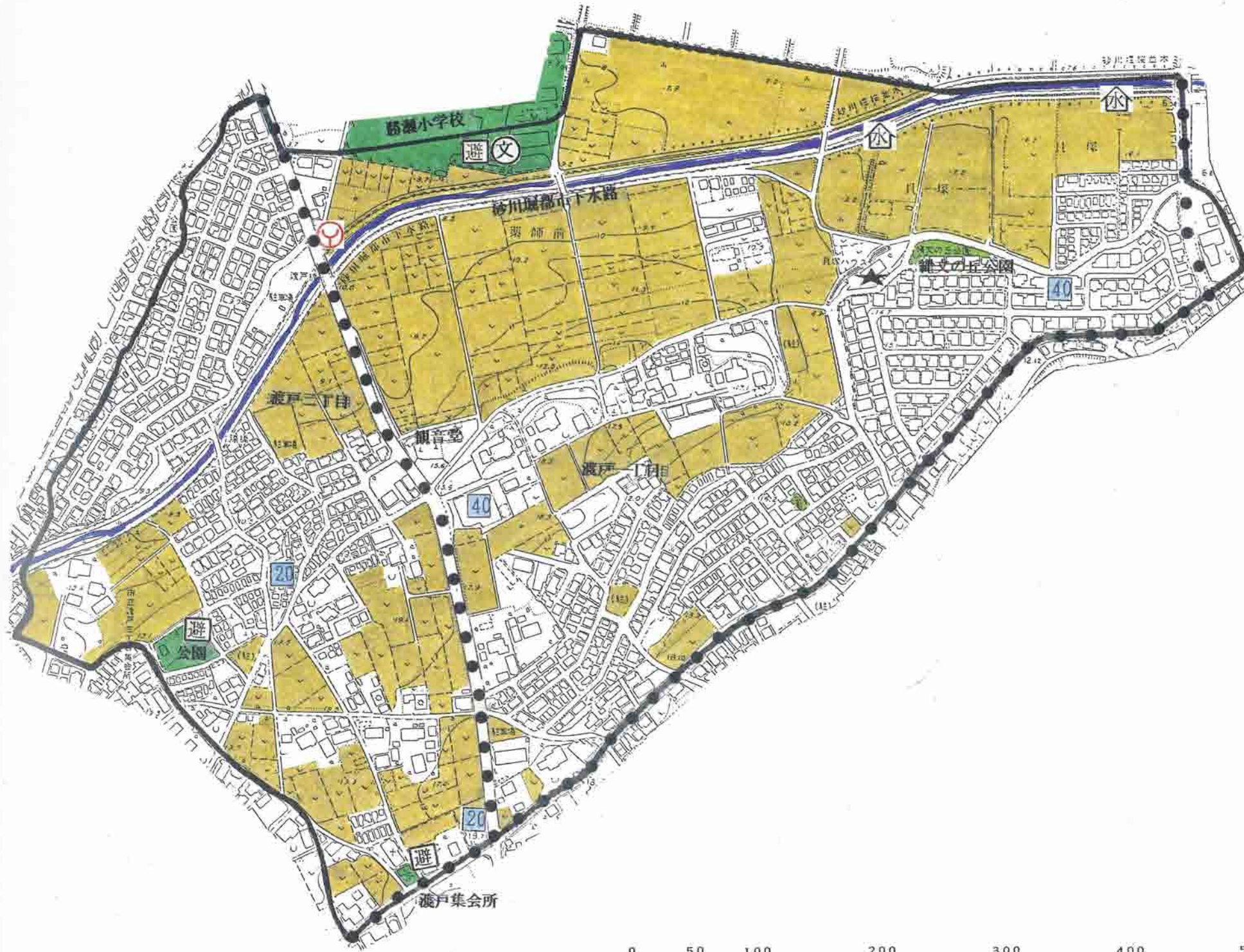
凡 例	
●	給油取扱所
■	一般取扱所
⊕	危険物屋内タンク貯蔵所
⊖	危険物屋外タンク貯蔵所
⊗	危険物地下タンク貯蔵所
▲	L P G 充 填 所
△	橋
▽	横断歩道橋
△	立体交差
■	木造家屋密集地域
—	河川・水面
⚠	急傾斜地崩壊危険区域
⊙	盛 土
□	浅い谷・低地(谷底平野)

既往浸水域(平成3年台風18号)	
■	田の浸水地域
■	田の被害区域
■	畑の被害区域
■	床上浸水地域
■	床下浸水地域





防災現況図B(災害抑止要因)



凡 例

	消防署・出張所
	消防団機械器具置場
	水防施設
	防火水槽・プール
	警察署・派出所・駐在所
	市役所・出張所・公民館
	防災行政用無線子局位置
	コミュニティ・集会施設
	保健所・保健センター
	病 院
	医 院
	休日診療所
	指定避難所
	公 園
	河川・水面
	避難可能な道路
	幅員12m以上の道路
	幅員12m以上の道路 (計画中)
	学 校 (小・中・高)
	空地・水田・畑

